

令和 2 年（2020年）度 学校自己評価（最終評価）

令和 2 年度の重点目標

①学習における基礎基本の定着と応用力を身につけるための個に応じた指導体制を築く
②自らの判断と行動により充実した学校生活を創り出し、自らの力で自己実現ができるよう支援する
③地域や各教育機関と連携し、地域社会を担う人材としての資質を育むとともに、積極的な情報発信に努める
④保護者との連携を密にし、いじめ・暴力・体罰のない安心安全な学校づくりに努める

【学校教育目標】	
I 一人ひとりに応じた学力をつける	(2) 指導方法の工夫・開発
(1) 基礎基本の徹底	(4) 受験学力の向上
(3) 話す力・読む力・書く力の重視	
II 個性を大切に、「創造性」を培う	(2) 基本的な生活習慣の確立と健康な心身の育成
(1) 進路を意識した学校生活の充実	(4) 人権教育（いじめ・体罰等の防止）の一層の充実
(3) 一人ひとりの生徒との対話の重視	
III 地域に根差した開かれた学校づくりを進める	

評価日(回答日):令和3年2月10日
 評価指標:A十分達成できていると考える Bおおむね達成できていると考える Cやや不十分であると考える D不十分である

領域	対象	評価項目	今年度 評価の観点		
教育課程	教育課程	①学習集団の編成	1年生について学力に応じた学習集団の編成ができたか。		
			2年生について進路を見据えた適切なコース編成ができたか。		
	②特色ある教育課程の編成	3年生について生徒の進路希望に応じた講座編成ができたか。			
		「総合的な探究・学習の時間」の内容の充実が図れたか。			
	学年	①授業の工夫・改善	生徒にとって分かりやすい授業が実践できたか。		
			教員が授業を互いに見合う機会や情報・意見交換の機会を持てたか。		
			各教科において、生徒が学力を高めるにあたっての有効な指導方法の模索ができたか。		
			学校設定科目「プログレス」を中心に、生徒の学び直し・学び高めの有効な指導ができたか。		
	学習指導	②個に応じた指導	生徒一人ひとりの理解度を把握した上で個別指導がなされ、学習意欲を喚起できたか。		
			ボラアカデミーと連携・協働し、学習意欲を喚起できたか。		
			③体験的学習の充実	生徒の実態に即して、体験的な活動を取り入れた学習が進められたか。	
	教育活動	④読書活動の啓発	年間の図書館の利用者数が増加するなど、生徒全体に読書活動を促す取り組みができたか。		
			生徒指導	①職員間の意識の統一	職員会議等の会合において、生徒指導の方針を全職員で共有し確認できたか。
	②生徒が安心して学べる環境づくり	学習環境を整備すると共に暴力や威圧、いじめの予防に努め、またそれらに適切に対処・指導できたか。			
		③家庭との連携			家庭と連絡、連携をとりながら、生徒に関する諸課題に対処、指導することができたか。
		④生徒との対話			生徒と対話、コミュニケーションをとりながら、必要な指導をすることができたか。
進路指導	①キャリア教育の推進	「蓼高タイム」におけるインターンシップの実施等を中心に、将来を見据えての進路選択につながる指導ができたか。			
		②進路目標の確立と進路実現	生徒一人ひとりが進路目標を持ち、自己の課題に意欲的に取り組むよう指導できたか。		
特別活動	①生徒会活動の推進	執行部が中心となり、生徒一人一人が参加できる活動となるよう指導できたか。			
		②部活動の充実	加入の促進を図り、活発な活動や発表の場となるような環境を整えることができたか。		
学校連携	①授業公開	地域、中学生、保護者等に対して蓼科高校の特色が理解できるような授業を公開することができたか。			
		②広報活動	フォトニュース、学校案内パンフレットやホームページを通じて、地域や中学生などに本校の魅力を発信することができたか。		
		③外部との連携	地域学など外部講師の活用を通じて、校外機関との連携が図れたか。		
研修	①職員研修の充実	課題に応じた職員研修の機会を設定できたか。			

評価(ABCD)	A	B	C	D	個人から出た反省・意見等
A-	57%	43%	0%	0%	・英数国の習熟度別授業は学習集団として良いと思う。2年以後も同じような集団ができれば効果が上がると思う。 ・年度当初以降、変更ができないので今後どう考えていくか。(若干の組み替え等)
B	36%	59%	5%	0%	・選択をする時点で明確な進路希望がない生徒もおり、なかなか難しい部分もある。
B	33%	57%	5%	5%	・進学文系では進学でも文系でもない生徒が集まっている。コース分けの検証と同時に、粘り強い指導が必要。 ・授業についていけない不安な生徒がいる講座があった。
B	27%	68%	0%	5%	・総合的な探究の時間のあり方を研究したい。 ・例年通りとはいかなかったが、できる範囲でできたか。 ・教科での探究的な学びを充実させたい。
B+	41%	59%	0%	0%	・プリントやICTを用いて理解力を深める授業ができた。 ・さらにICT活用をすすめたい。
B	36%	59%	5%	0%	・教科内では授業を見合っている。 ・10月に実施した授業見学が良かった。 ・小さい学校なので、積極的であると思われる。
B+	45%	55%	0%	0%	・なかなか高まらない。 ・個々の状況に対応できるよう、引き続き研究する。
A	68%	27%	5%	0%	・繰り返し学ぶことで基礎力が身についた。 ・定着については疑問だが、まずはやることに意味がある。
B	36%	59%	5%	0%	・生徒が多様すぎて追いつかないところもある。 ・意欲を持って放課後質問などに研究室をたずねるなど地道な取り組みの成果がある。
B+	45%	45%	9%	0%	・懇談会で周知を回り入生が増えた。 ・良い
B+	41%	55%	5%	0%	・プロジェクター等活用している先生がいる。もっと活用したい。 ・コロナにより体験的な学習が少なくなっている。 ・可能な活動は取り入れて学習をすすめられた。
B+	41%	50%	9%	0%	・過去5年分のデータが見たい。 ・「読書案内」や各イベントが工夫されていて良い。
A-	59%	36%	5%	0%	・係や担任より必要な情報が共有された。
A-	55%	45%	0%	0%	・学習環境→黒板の刷新を！（チョーク落ちやすく、黒板消しが置けない） ・面談や生徒の声を大切に扱う雰囲気があるので大切にしたい。
A	77%	23%	0%	0%	・担任がよくやっている。
A	68%	23%	9%	0%	・ガイダンス指導で多くの先生に関わってもらうのは大切。じっくり生徒と対話する機会も大切。 ・理解できないことを言わず、分からないままに過ぎるのを待っている態度が気になる。
B	23%	64%	14%	0%	・卒業生を含めて、地域を知り社会から学び考える機会はとても貴重である。 ・社会人講座を継続したい。
B	36%	59%	5%	0%	・各学年様々な進路行事を実施し、進路に向けた意識づくりに尽力している。また、自己の課題発見に向けても色々な角度から生徒にアプローチしている。
B+	50%	50%	0%	0%	・コロナ禍で色々な制約の中、創意工夫、アイデアを出し合って協力して取り組めた。 ・まだ係の先生に頼っている。
B	36%	50%	14%	0%	・地道によく活動している。 ・加入促進のための取り組みを全体で行う機会を増やしてほしい。
A-	50%	45%	5%	0%	・体験入学ではコロナ禍の状況でも大勢の中学生、保護者が集まった。参加者の感想は好評であった。 ・もっと地域との関わりを持ち、本校の魅力を伝える必要も感じる。
A	64%	32%	5%	0%	・地道な取り組み、生徒の活動や声をさらに取り入れた。 ・どの程度外部の方々が見ているのかは不明だが、今年度新しくなったページや内容は充実していた。
B+	45%	45%	9%	0%	・蓼科学では外部講師を呼ぶ機会が少なく、地域 I では外部団体との協働の機会が持てなかった。
A-	55%	41%	5%	0%	・全職員で研修内容を共有できる機会があっても良かった。 ・オンライン化に対応した研修ができて良かった。 ・研修報告は資料そのまま出して良いと思うが、簡潔にまとめてほしい。